Ⅴ．本事業で作成したIT教材を活用した教員に対する模擬授業の実施

第1回
平成26年12月11日(水)
場所：昭和大学 旗の台校舎1号館6階会議室
対象：教授会メンバー

第2回
平成27年7月22日(水)
場所：昭和大学 歯科病院6階第2臨床講堂
対象：教職員

IT（e-ラーニング、VP、電子ポートフォリオを含めた）を活用した模擬授業
【平成26年　12月17日(水)実施】

実施日時:平成26年　12月17日(水)　14時から2時間
対象:　教授総会メンバー，城先生(岩手医科大学)，越野先生(北海道医科大学)
目的:　ITを活用した授業(アクティブラーニング)の共有
1　超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成
2　事前学習＋プレテスト＋自由(症例)課題＋リソース講義＋ポストテストの流れ
概要:教員は学生仮アカウントで受講、授業後教員アカウントで正答率などを確認
12月10日に事前学習の配付　(e-ラーニングとVPのインストール完了)

授業スケジュール

【授業前】事前学習課題　(弘中先生:2025年問題、美島先生:口腔乾燥症のメカニズム)

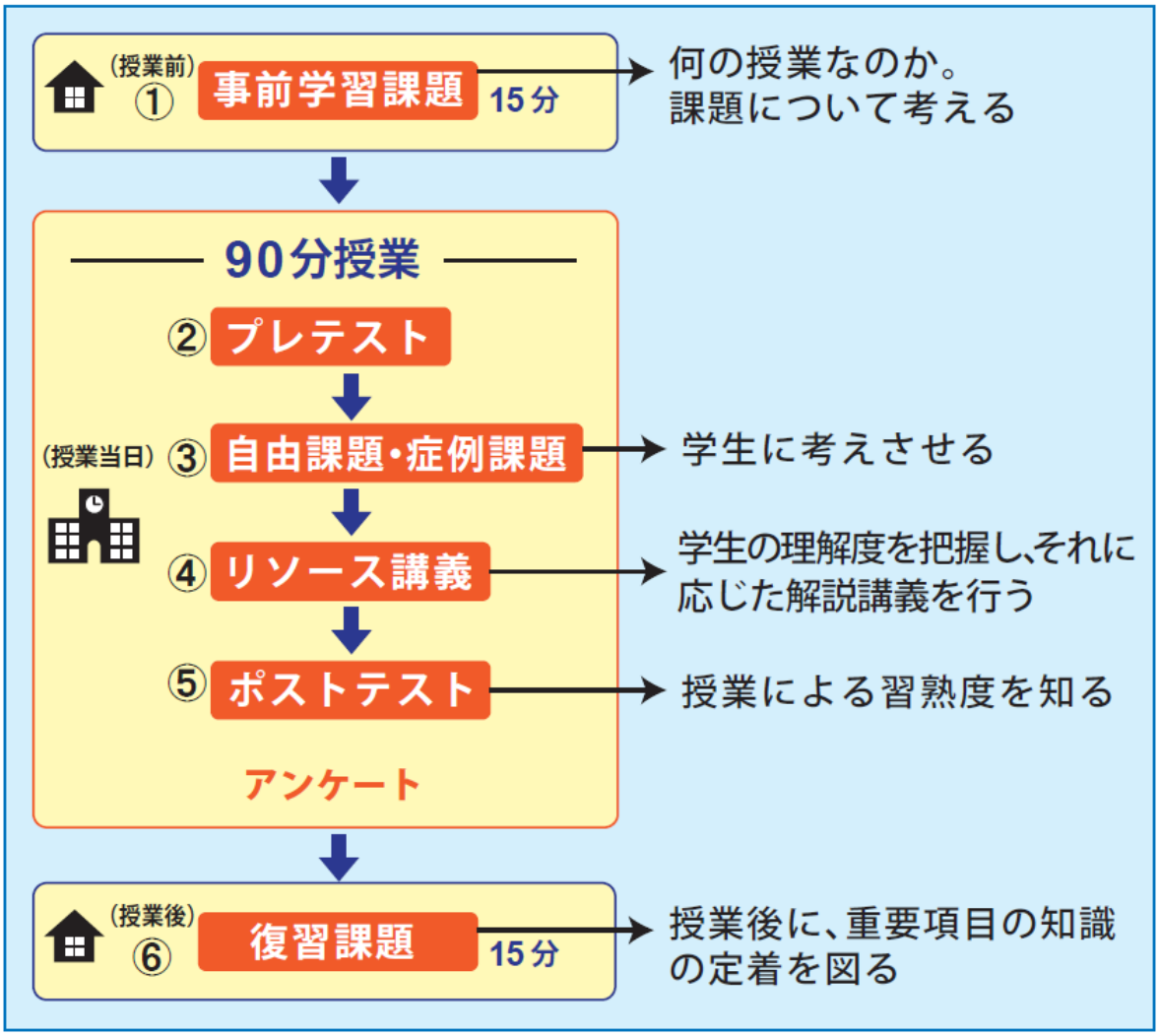
【授業当日】

14:00　模擬授業の趣旨説明　(宮崎学部長)
14:10　模擬授業
1. D3チーム医療と口腔医学I、D4チーム医療と口腔医学IIの概要説明(片岡)
2. 電子ポートフォリオの記載(目標書き出しシート)
3. 弘中先生の授業
   1)プレテスト(2025年問題)
   2)事前学習課題の講評と解説
   3)自由課題　ビデオ課題(健常者と脳梗塞後の比較)／(地域連携医療)
   4)リソース講義
   5)まとめテスト(ポストテスト)
   6)学生としてのアンケート
4. 美島先生の授業(案)
   1)プレテスト(口腔乾燥症のメカニズム)
   2)事前学習課題の講評と解説
   3)　症例課題(VP)
   4)　リソース講義
   5)　まとめテスト(ポストテスト)
   6)学生としてのアンケートII
5. 電子ポートフォリオの記載(ふりかえりシート、成長報告書)(片岡)
6. 教員としての解答、提出率，正答率などの確認の方法の説明(金沢電子　佐藤、ピコラボ　鈴木)
7. 城先生(岩手医科大学)，越野先生(北海道医科大学)の各大学での授業報告
8. 教員としてのアンケート実施
9. 模擬授業に関する質疑応答、意見聴取　(片岡)






IT教材を活用した模擬授業の流れ （授業内容：口腔乾燥症・超高齢社会とチーム医療）



【eラーニングシステム(事前学習と模擬授業)】
https://el5.showa-u.ac.jp/dent14/course/view.php?id=147

【ＶＰシステムログインページ】
https://vpwa.showa-u.ac.jp/

【電子ポートフォリオサイト】
https://eport.showa-u.ac.jp/

IT教材を活用した模擬授業

超高齢社会に対応できる歯科医師の養成

平成26年12月17日

大学間連携共同教育推進事業

超高齢社会に対応できる歯科医師の養成

～北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学と歯科医師会の協働事業～

平成24年～28年　（5年間）

超高齢社会の到来により、歯科患者の基礎疾患有病率・服薬率の増加 → 超高齢社会に必要とされる歯科医師像の把握

・全身と関連づけて口腔を診れる歯科医師
・基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師

ITを活用した教育センター（3大学と歯科医師会）における取組内容

1. 能動型学習資源の改良［e-learning・仮想患者システム・電子ポートフォリオ］
2. ITを活用した超高齢化社会に対応した歯学教育プログラムの開発
3. 教育目標の到達度の評価
4. ITを活用した歯学教育プログラムの改良



教育内容とITシステム

1. 全身に関連する基礎知識の習得 ― e-learning
2. コミュニケーション・臨床推論能力の養成 ― 仮想患者システム
3. 自己評価能力の養成 ― 臨床実習における電子ポートフォリオの活用

ＩＴを活用した教育センター（３大学と歯科医師会）における取組内容

1. 能動型学習資源の改良［e-learning・VPシステム・電子ポートフォリオ］
2. ITを活用した超高齢化社会に対応した歯学教育プログラムの開発
3. 教育目標の到達度の評価
4. ITを活用した歯学教育プログラムの改良

教育センターの業務

1. VPの開発、活用、改良
2. 電子ポートフォリオの開発、活用、改良と評価方法の確立
3. e－learning の開発、活用、改良
4. 超高齢社会に対応するITを活用した歯学教育プログラムの開発
5. 教育目標の到達度の評価
6. ITを活用した歯学教育プログラムの実施と改良
7. 取組の成果の発表、公開、意見聴取
8. 報告書の作成

■５年計画

H24 1年目	・ＩＴを活用した教育センターの設立 教育プログラム検討委員会（月例）の設立 到達度評価検討委員会（年３回）の設立	・連携校が使用している e-learning、VP教材、電子ポートフォリオの共有（使用法、実施状況の調和）	
	・ＩＴ環境の整備 ・e-learning、ＶＰを教諭する準備 ・電子ポートフォリオの活用準備	・WSの開催	
H25 2年目	3年生に対する IT教育システムによる評価	・WSの開催 ・アンケート ・成績解析と検討 ・e－learning、VPの改良 新規開発方針	
	3年生に対する IT教育システムの活用		
H26 3年目	4年生に対する IT教育システムによる評価	・WSの開催 ・3～4年生の e-learning、VPの成績検討 ・e-learning、VPの改良 ・歯学教育学会などでの発表 ・アンケートの実施	
	4年生に対する IT教育システムの活用		
H27 4年目	5年生に対する IT教育システムによる評価	・WSの開催 ・3～5年生の e-learning、VPの成績検討と教育プログラムの見直し（教育効果と評価の妥当性）	
	5年生に対する IT教育システムの活用	・歯学教育学会などでの発表 ・アンケートの実施	
H28 5年目	6年生に対する IT教育システムの活用	・連携大学の拡大 ・プログラムの検証と改善	

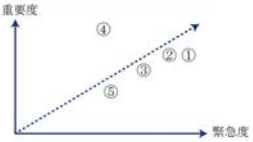
取組内容

1. 超高齢社会に必要とされる歯科医師像の把握

1. 歯科における問題点

① 在宅歯科診療の整備不足
② 教育の問題
③ 全身疾患の理解
④ コミュニケーション不足
⑤ 口腔ケアに疎下の問題把握不足

2. 問題点の重要度・緊急度



KJ法による超高齢社会に必要な歯科医師を養成する上での歯学教育の問題点のセッション



第1回 ITを活用した教育センターワークショップで実施

---

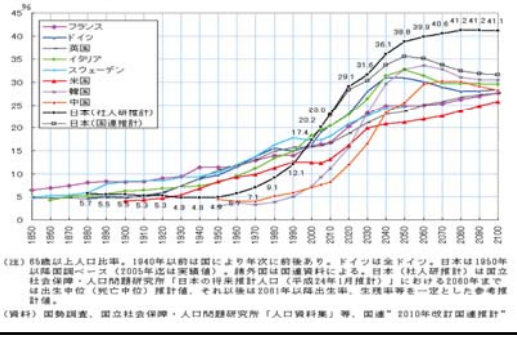
2. IT教材の内容について



日本の歯学・歯科医療における課題

1. 人口構造の変化

主要国における人口高齢化率の長期推移・将来推計



（注）65歳以上人口比率。1940年以前は国により年次に前後あり。ドイツは全ドイツ。日本は1950年以降国調ベース（2005年迄は実績値）。諸外国は国連資料による。日本（社人研推計）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」における2060年までは出生中位（死亡中位）推計値、それ以後は2061年以降出生率、生残率等を一定とした参考推計値。

（資料）国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」等、国連"2010年改訂国連推計"

日本の歯学・歯科医療における課題

2．口腔の疾病構造の変化

■ う蝕の激減

12歳時のDMF指数	
1970年	5.6
2000年	2.7
2010年	1.4

■ 舌痛症，味覚障害，口腔乾燥症，顎関節症の増加

医学知識、特に精神医学に関する知識が必要

日本の歯学・歯科医療における課題

3．医学、生命科学の進歩

口腔の健康は全身の健康と密接に関連

歯周病 → 高血圧症、糖尿病、心血管系疾患など
糖尿病 → 歯周病の進行

社会のニーズ＆歯学部



歯科医療に対するニーズの変化は必至

社会のニーズ＆歯学部

歯・口腔を全身から切り離せない

全身疾患、全身の健康との関連を重視した口腔疾患の予防、治療、ケア



歯科医療に対するニーズの変化は必至

昭和大学の育てる歯科医師

オーラルフィジシャン（口腔医）

1）リスクのある患者に安全な歯科医療を施す
2）チーム医療に参画する

1．口腔機能障害のリハビリテーション
2．一般医科病棟における入院患者の口腔ケア
3．地域チーム医療（要介護高齢者、精神障害者、知的障害者）への参画

6年一貫で 知識→見学→体験→実践

チーム医療に参画できる歯科のプロを目指す



D3　チーム医療と口腔医学Ⅰ

一般目標[GIO]

国民の健康に貢献できる**オーラルフィジシャン（口腔科医）**になるために、
医療の仕組みを理解し、多職種連携のチーム医療に参加し、特に**高齢者にみられることが多い口腔症状**と各種**全身疾患との関連を理解**した上で、口腔のケアプランを立案する能力を獲得する。

学習目標

1. 今後の日本の医療・歯科医療体系を考える。
2. 高齢者に多く見られる基礎疾患について概説できる。
3. 脳卒中の症状と全身および口腔の機能に対する影響を説明できる。
4. 脳卒中後の患者の歯科診療における注意点を概説できる。
5. 脳卒中発症から症状の回復までの一連の医療体制を概説できる。
6. 医療・歯科医療の連携と病院におけるチーム医療の基本を説明できる。
7. 唾液の分泌に影響を与える因子について説明できる。
8. 口腔乾燥症の口腔内所見について説明できる。
9. 口腔乾燥を認める患者に対する口腔ケアについて説明できる。
10. 唾液分泌能測定、口腔乾燥度測定、細菌数測定、嚥下機能測定、および咬合力測定を実施し、その結果を評価できる。

授業（回）（90分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	学習内容	担当
授業1	平成26年9月2日(火)	1	全身がわかる歯科医師がなぜ必要か？	日本の高齢化率、将来人口推計から今後の日本の社会と医療を考える。高齢者の身体的、心理学的特徴と高齢期に見られる基礎疾患と口腔疾患を学ぶ。ビデオを通じて、歯科診療と全身状態との関連について考える。	片岡 竜太 教授（歯学教育学）
授業2		2			弘中 祥司 教授（口腔衛生学）
授業3	平成26年9月30日(火)	1	脳梗塞を発症した患者から、医療の仕組みを学ぶ	脳梗塞を発症し、入院加療の後に、自宅療養中の患者の歯科受診を通して、医療・歯科基礎の仕組みと連携を学ぶ。チーム医療の基本（構成メンバーと役割）および歯科が担う口腔のケアの目的を学ぶ。	弘中 祥司 教授（口腔衛生学）
授業4		2			
授業5	平成26年9月30日(火)	3	口腔乾燥症と疾患①	唾液・唾液分泌機能について、基本的事項をe-learningで学ぶ。基礎疾患を有する患者のシナリオを用いてSmall Group Discussionにより唾液分泌に影響を与える因子とそのメカニズムについて学習する。	美島 健二 教授（口腔病理学）
授業6		4			
授業7	平成26年10月7日(火)	1	口腔乾燥症と疾患②	グループで課題に対する説明を考え発表する。発表後、e-learningとリソース課題により唾液・唾液分泌における基本的事項の確認、基礎疾患と唾液分泌障害の関連性について理解する。口腔乾燥症の患者に対する口腔ケアについて学ぶ。	美島 健二 教授（口腔病理学）
授業8		2			
授業9	平成26年10月14日(火)	1	口腔診察・検査実習と疾患	唾液分泌能（ガム、サクソンテスト）、口腔乾燥度、細菌数、嚥下機能、および咬合力の測定を学生相互で実施し、結果をカルテに記入する。異常値が得られた場合、原因や要疾患についてe-learningで学ぶ。これらの検査を применить た D5 病棟実習についてリソース課題で学ぶ。	美島 健二 教授（口腔病理学） 田中 孝一 助教（口腔病理学） 井上 富雄 教授（口腔生理学） 中村 史朗 講師（口腔生理学） 望月 文子 助教（口腔生理学） 桑田 啓貴 教授（口腔微生） 森崎 弘史 講師（口腔微生）
授業10		2			

3年生の他の授業との関連



昭和大学歯学部4年生に対する授業計画

授業（回）（90分）	期間・内容				
	年月日	時限	学習項目	学習内容	担当
授業1	平成26年9月2日(火)	2	オリエンテーション	VPの使い方を修得する	片岡 竜太 教授（歯学教育学）
授業2	平成26年9月30日(火)	3	歯科診療と全身疾患	本ユニットの目的を理解する。基礎疾患と歯科診療との関連についてe-ラーニングなどで学ぶ。	片岡 竜太 教授（歯学教育学）
授業3		4	チーム医療と口腔内科	チーム医療を行うにあたり、口腔内科的な知識がどのように必要であるかを理解する。	片岡 竜太 教授（歯学教育学）
授業4	平成26年10月7日(火)	3	口腔乾燥を訴える患者に対する医療面接	口腔乾燥を訴える患者の鑑別診断についてe-ラーニングで学ぶ。口腔乾燥を訴える患者に対して医療面接で聞く内容について、VPやe-ラーニングで学ぶ。	美島 健二 教授（口腔病理学）
授業5		4			
授業6	平成26年10月14日(火)	3	口腔乾燥症に対するケア	口腔乾燥が見られる患者に対する口腔のケアについて学ぶ。	美島 健二 教授（口腔病理学）
授業7		4			
授業8	平成26年10月21日(火)	3	チーム医療における歯科医師の役割（急性期）	脳梗塞などの疾患に罹患した患者に対して入院中に行うチーム医療の実際について、VPやe-ラーニングで学ぶ。	弘中 祥司 教授（口腔衛生学）
授業9		4	チーム医療における歯科医師の役割（回復期）	脳梗塞などの疾患に罹患した患者に対して退院後に行う地域連携医療の実際について、VPやe-ラーニングで学ぶ。	弘中 祥司 教授（口腔衛生学）

STEP 1　**3年生【授業２】**

全身がわかる歯科医師がなぜ必要か？

2014年　9月16日　2限

WG:3 担当：弘中　祥司

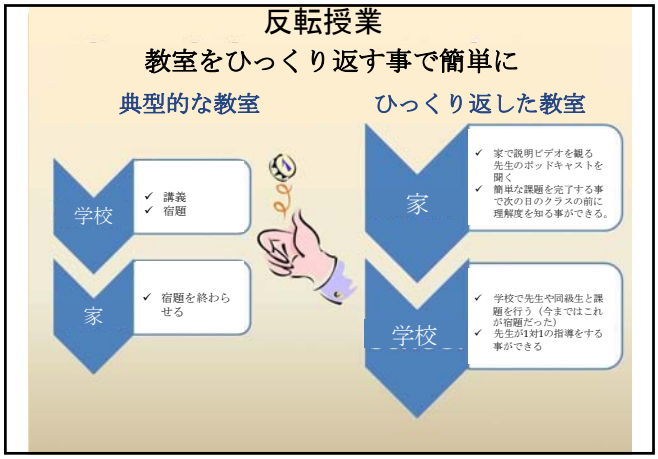


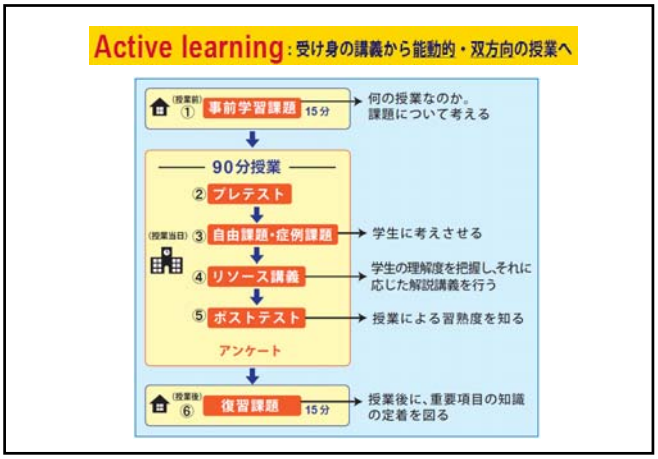
舌痛症と口腔乾燥症のトピックの通常教育方法

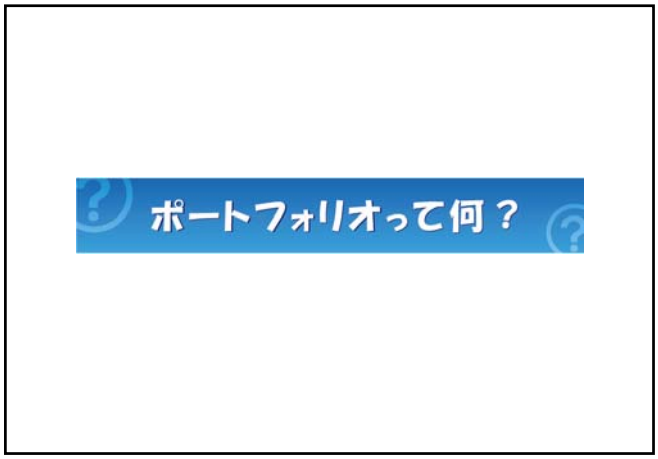


http://www.udmercy.edu/giving/newsletter/2011-06/dental-facility.htm

- 講義
- 症例スライドの供覧
- テキストや文献を読む
- 事実に基づいた試験 (MCQ, 穴埋め, 小論文)







ポートフォリオ【portfolio】



紙ばさみ、書類鞄。建築家の持っている作品歴ファイル。
バラバラの情報を一元化するもの。
情報を一元化し俯瞰することそこから価値が見えてくる。その人の能力や個性など、テストなどで数値化することができない成長を評価することができるとして、現在教育や医学界で広がっている。

ポートフォリオ評価とコーチング手法 医学書院 鈴木敏恵著 2006より

なぜポートフォリオを使うの?

電子ポートフォリオシステムを開発した理由

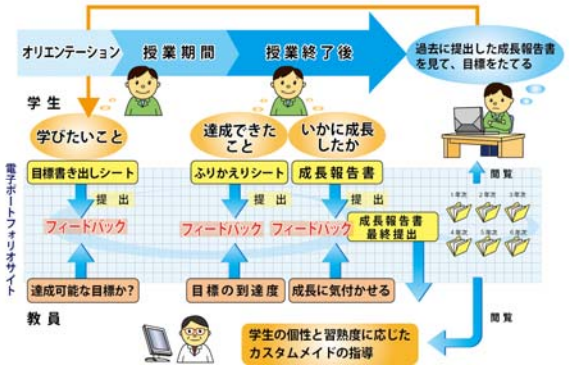
チーム医療ができる医療人を養成するために、
教養と専門を含めて 卒業まで一貫した教育が必要

1. 将来に対する医療人としての長期の目標設定
2. 授業前の目標に対する授業後の振り返り
3. 次の授業に向けての短期の目標設定

自己評価と生涯学習ができる医療人

ポートフォリオはいつ･どのように･何を書くの?

電子ポートフォリオ



電子ポートフォリオ導入による効果

■自己評価能力の向上

学年が上がるにつれ、到達目標が達成できたかどうか自己評価できるようになっていた。

■適正な到達目標の設定と達成感

コミュニケーションなどの６年一貫教育では、前の学年の電子ポートフォリオを参照して、目標を立てることにより、到達度に合わせた目標設定ができるようになり、達成感がもてる。

■医療人としての将来の展望

授業前に医療人としての将来を考え、授業の意味を考える機会を与える。

目標書き出しシート

目標書き出しシート
Step1　（3 年生）

番号　　氏名

この授業における「自分の目標」（先ずはどんどん書き出してください）
「超高齢社会で活躍する歯科医師になるために何を学ぶべきか？」
①　できるようになりたいこと　②知りたいことなど
今回の授業で達成したい目標を「具体的」に挙げていきましょう。

Step２（４年生）

Step1 の授業で学んだ内容も振り返って、この授業における「自分の目標」を書き出してくだ
い。「超高齢社会で活躍する歯科医師になるためにさらに何を学ぶべきか？」
今回の授業で達成したい目標を「具体的」に挙げていきましょう。

Step3　（5 年生）

Step1,2 の授業で学んだ内容も振り返って、学んだ内容を臨床に応用する際の「自分の目
標」を書き出してください。

ふりかえりシート

ふりかえりシート
Step1

班　　番号　　氏名

1．教育目標のうち達成できたもの ①あなたは超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、この授業を通じて何を学びましたか？	2．改善すべきと考えること ①あなたが今後の学習において、改善すべき点はどのような点ですか？
3．今の気持ち・感情	4．超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、今後何を学ぶべきですか？

Step2

1．教育目標のうち達成できたもの ①あなたは超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、この授業を通じて何を学びましたか？	2．改善すべきと考えること ①あなたが今後の学習において、改善すべき点はどのような点ですか？
3．今の気持ち・感情	4．超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、今後何を学ぶべきですか？

成長報告書

成長したことベスト３ 1． 2． 3．
ここで得たことを、どう活かしますか？ いつ・どこで・どんな状況で・誰にどのように・・・具体的にイメージして書いてください

成長報告書

教員①からのコメント（サイトからコピーして完成させ、最終版をサイトに保存してください。）

感想（フィードバックを受けて、改めて感想を書き込んでください。）

臨床シナリオ・学部連携PBLの目的は？

何ができるようになれば良いのか？

将来にどのようにつながるのか？

目標書き出しシートを記入してください

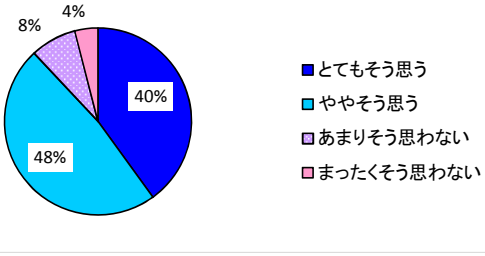
目標は具体的で、到達可能なものにする

「コアタイム1」で目標書き出しシートをファシリテーターに見せて、サインをもらってください。

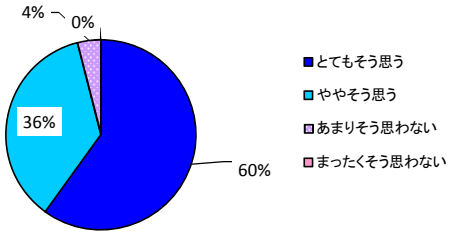


ITを活用した模擬授業教員アンケート　実施日：平成26年12月17日

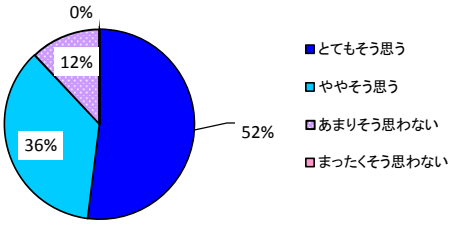
1. 事前学習は模擬授業を受ける上で役に立ちましたか？



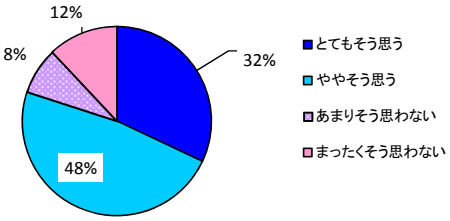
2. 模擬授業を受けてIT教材を活用した授業に興味を持ちましたか？



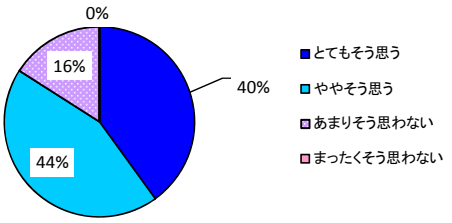
3. e-ラーニングを活用した授業に興味を持ちましたか？



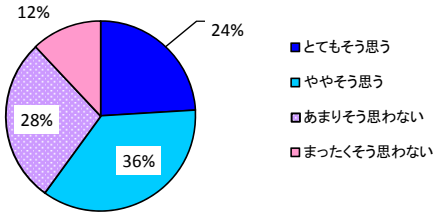
4. e-ラーニングを授業に取り入れてみたいと思いますか？



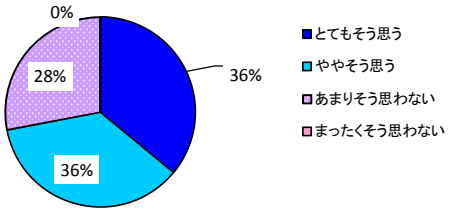
5. VPを活用した授業に興味を持ちましたか？



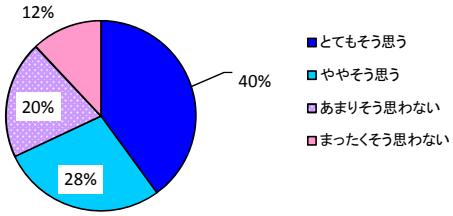
6. VPを授業に取り入れてみたいと思いましたか？



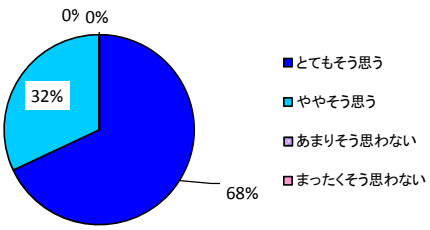
7. 電子ポートフォリオに興味を持ちましたか？



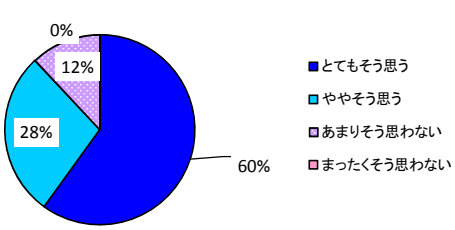
8.電子ポートフォリオを授業に取り入れてみたいと思いますか？



9. ビデオ教材に興味を持ちましたか？

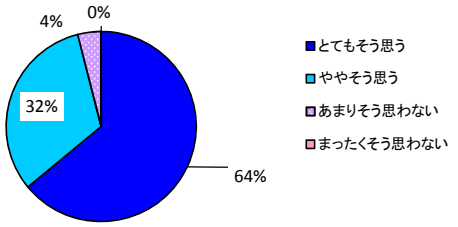


10. ビデオ教材を授業に取り入れてみたいと思いますか？

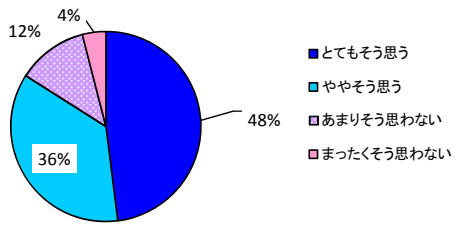


ITを活用した模擬授業教員アンケート　実施日：平成26年12月17日

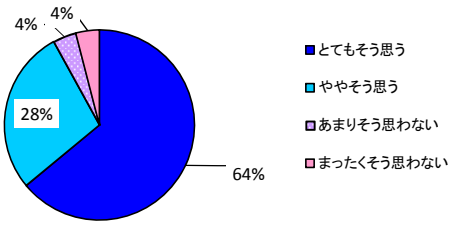
11. 双方向型授業（学生の取組、解答状況を知って授業を行う）に興味を持ちましたか？



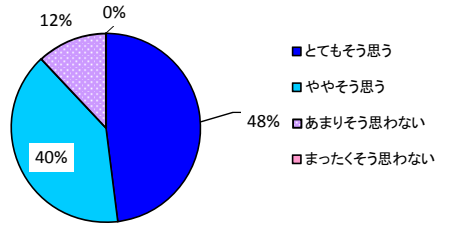
12. 双方向型授業を取り入れてみたいと思いますか？



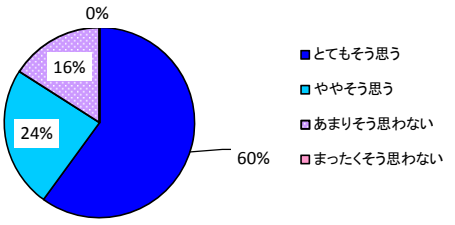
13. プレテスト・ポストテストは授業のポイントを学生に理解させるのに役立つと思いますか



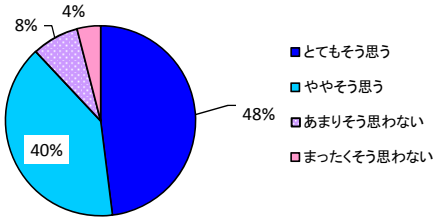
14. 自由記載問題は学生に考えさせるのに役立つと思いますか？



15. 復習課題は知識を定着させるのに役立つと思いますか？



16. 超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成の目的に対して、今回の内容はふさわしいと思いますか？



ITを活用した模擬授業アンケート　実施日：平成26年12月17日

17. 模擬授業を受けてみて感じたことを記載してください（ITを活用した授業に関する提案、超高齢社会の到来に対応する歯学教育に対する意見・感想など何でも結構です）

・現代の風潮でこの様な型を取り入れることはいいことだと思う。ただすべてをこのシステムであると漢字などが書けなくなる可能性がある。又、このシステムですとこれですべてと思う可能性がある。

・教材が良くできているので関心ました。

・大変でしょうが、もう少し内容のブラッシュアップがあると、さらに良い

・ノートはとれないのでしょうか。

・資料が細かすぎでしょうか。

・操作が更に簡単になると良いと思います。とくに特別なプラグインなどなく、スマホ等でもできる様になればさらに身近なものになると思います。

・学生に興味を持たせるためには有効な教材だと思われます。また知識の定着をはかるためには簡潔かつ過不足のないリソース講義が要求されると思われます。

・授業の準備等の労力と、学生に教えるべき情報量等のバランスが取れているか疑問ではある。

・教育効果の検証を行って頂きたい。

・ページまで行くのが大変。もう少し簡単にアクセスできるように。

・まだインタラクティブな感覚が少ない。

・VPはなかなか良くできていた。

・高齢者医療の先（次）に来るものへの予想と準備

・6年間の教育課程において、その教育（方略や姿勢）に一貫性をもつことが最も重要なことであろうと考えます。この授業だけでは学生に主体性をもたせることはムズカシイのではないかと考えます。

・コンテンツの充実には膨大な時間がかかると思われる。それはプレゼン資料と同じでかかる時間に比較して、内容は少ない。

・学生PCの状態が様々で、ソフトの動作の保証が困難と思われる。

・IT教科と従前方法によるものと、比率をしっかりと検討しないと、特に国試が急降下する可能性がある。

・授業を受けてみて大変有益でした。学生がこのような授業を受けることは良いことだと思う一方で、他の授業でもそうですが、慣れてしまうとモチベーションが下がると思います。また教員側の問題として、このようなプログラムを組むのに相当な労力が必要かと思います。

・視覚的教材は、学生の理解に役立つと思います。双方向型授業は自らの授業の不備を知るのに意味があり、授業内容改善に役立ち、学生にとっても退屈しない。しかしe-learning等は、へき地教育等に意義があるが、本学のような整えられた環境には情報量が少なく、かえって不利益だと思う。ライブラリーとして蓄積し歯科医師会等の卒後教育に役立てると良い。

IT（e-ラーニング、VP、電子ポートフォリオを含めた）を活用した模擬授業
【 平成27年　7月22日(水)実施 】

実施日時:平成27年7月 22 日(水)17 時 30 分から 1 時間 30分
対象:教職員
場所:歯科病院6階第2臨床講堂

目的: IT を活用した授業の共有とe-ラーニング教材作成に関する基礎技術の習得
　　1)超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成
　　2)事前学習＋プレテスト＋症例課題＋リソース講義＋ポストテストの流れ
　　3)e-ラーニング教材作成の基礎技術の習得
概要:教員は学生仮アカウントで受講、授業後教員アカウントで正答率などを確認
7 月 15 日に事前学習の配付　　(e-ラーニングのインストール完了)

タスク:片岡、美島、坂井、船津、柳澤、浅川、高橋由佳(歯科病院図書館)、
乾、津軽(ITを活用した教育センター事務局)

授業スケジュール
【授業前】事前学習課題 (美島先生:Step1 の復習問題)
【授業当日】
1. 口腔医学とチーム医療 I、II の概要説明 (片岡)
2. 美島先生の授業(案)
　1)プレテスト (復習を含む)
　2)事前学習課題の講評と解説
　3)リソース講義
　4)まとめテスト (ポストテスト)
3. e-ラーニング問題の作成 (プレテスト、ポストテスト)
4. アンケートの実施 (片岡)
5. 模擬授業に関する質疑応答、意見聴取 (片岡)

チュートリアル

(ア)基本操作
　① コーストップ画面に戻るには
　② コンテンツを編集するには
(イ)コース表示に関するもの
　① コンテンツの移動
　② コンテンツの表示・非表示
　③ コンテンツの削除

(ウ)小テスト設定に関するもの
　① 名称の変更
　② 受験可能回数の変更(無制限等)
　③ レビューオプションの変更(問題の正否等)
　　- 採点しない
　　- 採点する
　　- 採点して正答・解説を表示する

(エ)小テスト問題に関するもの
　① 問題テキスト内容の変更
　② 解説の変更
　③ 答えの変更
　　- テキストの変更
　　- 正答設定の変更

(オ)ページ(解説)に関するもの
① 名称の変更
② 解説内容の編集

(カ)コンテンツ作成
① 解説ページを作成する
② 資料(ファイル)をアップする
③ 多肢選択式問題を作成する
④ 小テスト作成の手順
⑤ プレテストの設定
⑥ ポストテストの設定

ヘルプデスク

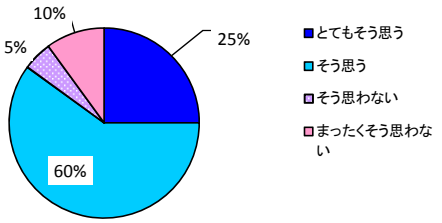
文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」
ITを活用した教育センター
Mail: itrenkei@edu.showa-u.ac.jp
〒142-8555東京都品川区旗の台1-5-8
昭和大学歯学部　スペシャルニーズ口腔医学講座
歯学教育部門　内
Phone: 03-3784-8157/Fax: 03-3784-8158



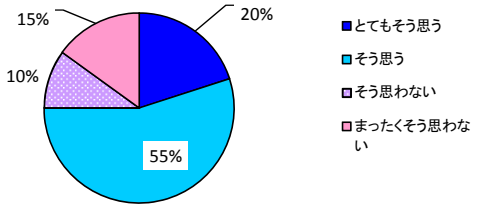



ITを活用した模擬授業 教員アンケート　実施日：平成27年7月22日

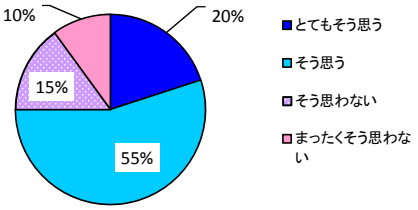
1. 今回の授業内容について理解しやすかった。



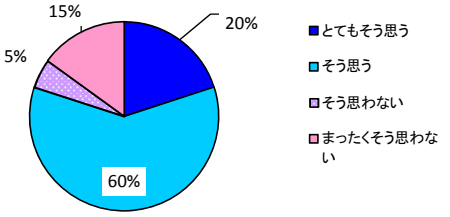
2. 今回の授業内容に興味や関心を持った。



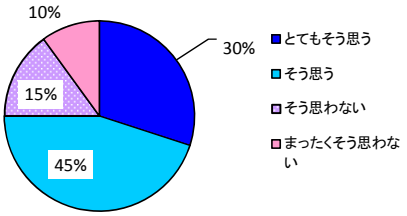
3. 今回の授業内容は自分のレベルに合っていた。



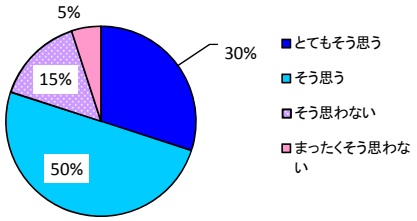
4.「事前学習」は授業に興味を持ち、理解するのに役立った。



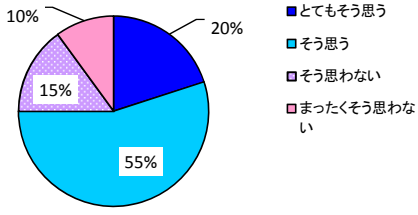
5.今回の授業のe-ラーニング教材の設問は解答しやすかった。



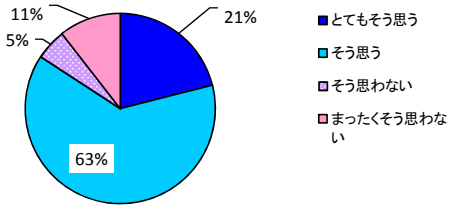
6.今回の授業の解答時間は十分であった。



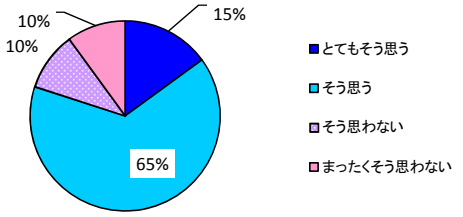
7.今回の授業でe-ラーニング・リソース講義の組み合わせは良かった。



8.今回の授業で重要な内容を「まとめテスト」で身についたかどうか確認できた。



9.「復習課題」があれば「復習課題」を使って復習したい。



10.今回の授業で良かったことを書いてください。

・わかりやすかった。
・昔作った問題がサルベージできた。

11. eラーニング問題の作成について、理解できた事、難しかった事は何ですか？

・進級試験の作成とかなり似ているので作成しやすい。少し複雑なような気がします。
・設定が面倒である。

12. その他気づいたことを書いてください。

・進級試験などの問題をコピーできるのかどうか知りたい。
・プルダウンメニューやチェックボックスをもっと大きくしたほうがタブレット端末などで使いやすいと思います。